

訪問活動を積極的に行う伴走型の支援へ 障がい児者相談と生活困窮者相談の体制を充実しました

生活困窮者相談

拡充

生活にお困りの方が安心して暮らせるように、専門の相談支援員が一人ひとりの状況に応じた支援について相談者と一緒に考え、寄り添いながら自立に向けた支援を行います。家計改善や就労支援など、関係機関と連携しながら安心した自立生活を過ごせるように支援します。

(相談例)

- ・失業や休業により収入が減少し、家賃や公共料金の支払いに困っている。
- ・長期間仕事をしていないため、就職活動に不安がある。
- ・家計の管理がうまくいかない。
- ・生活費や仕事のことで悩んでいる。



障がい児者相談

拡充

(障がい者基幹相談支援センター)

地域における障がい児者相談の中核的な役割を担う基幹相談支援センターとして、福祉サービスに関する相談のほか、解決に時間を要する複雑な問題に関して、専門職が関係機関と連携して支援につなげます。また、サービスの利用プランを作成する相談支援事業者に助言などを行います。



(相談例)

- ・自分が亡くなった後、障がいのある子の生活が心配。
- ・施設などを出て地域で暮らしたいが、できるだろうか。
- ・障がい福祉サービスの利用方法が分からない。

一般相談

家族のことなど、生活上の様々な問題について話を聴き、解決に向けた支援などについてご案内します。

(相談例)

- ・悩み事があるが、どこに相談すればいいかわからない。
- ・家族のこと、生活のことで悩んでいる。
- ・家族がひきこもりがちだが、どうしたらよいか。



高齢者の総合相談

(地域包括支援センター)

高齢者の介護や健康に関すること、認知症や高齢者虐待などに関して、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員がチームで相談や支援をしています。

(相談例)

- ・家族が認知症ではないか心配だが、どう対応したらよいか。
- ・介護サービスはどうやって利用すればよいか。
- ・父が亡くなってから母の外出が減って足腰が弱くなってきたので、外出のきっかけをつくりたい。



医療と介護の連携に関する相談 (在宅医療サポートセンター)

自宅で医療や介護を受けながら生活することを望む方やそのご家族、医療機関などからの相談を受けます。そして、その方の状態に応じた医療や介護を受けられるよう、専門のコーディネーターが、医療機関や介護サービス事業所との調整などの支援をします。

また、医療従事者や介護従事者からの相談を受けて連携の調整を行い、患者や利用者などの要望をふま

て地域の医療機関や介護事業所を紹介します。

(相談例)

- ・入院中の家族が退院する予定だが、自宅での医療や介護のサービスの利用方法を知りたい。

